
かずみ・2200年の未来へ行く

窪まり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

かずみ・2200年の未来へ行く

【Nコード】

N0757Z

【作者名】

窪まり

【あらすじ】

200年後の未来から、ある日突然、時空の裂け目から、全裸の女性がアパートの窓から入ってきた。女性にしか興味がない、20歳の、かずみは、なぜ？突然、全裸の美少女が入って来たのか理解できなかった。彼女の正体は、200年後の未来から来たアンドロイドであった。5年間の女同士の同棲をしたが、突然別れることになり、200年後の未来で彼女と再会したために、自分の肉体を冷凍保存するために風俗嬢として働くことを決意した。だが現実には厳しい。いろんなお客を相手にしなければならぬ。なお、性風

俗の世界を想像で描いたものですから、リアリティは少ないかも知れませんが。

かずみが、なぜ性風俗嬢になった理由（前書き）

ある日、突然、全裸の美少女が、主人公かずみの部屋に入ってきた。5年間の同棲生活にピリオドを打ち、本気でアンドロイド199J pを愛してしまった。

200年後の未来に行くため自分の肉体を冷凍保存しようと考え、性風俗の世界に入った。

かずみが、なぜ性風俗嬢になった理由

かずみは、2000年後の未来から来た美少女アンドロイドと恋に陥いり、5年間も毎日のように女同士の肉体関係をもっていた。

だが、突然の別れに消沈してしまった。

美少女アンドロイド1999.jpは、謎の時空の歪みから2000年後の未来からタイムトラベルして来たのである。

2000年後の未来の科学でも不可解な現象である。そして、約5年間、かずみと1999.jpというアンドロイドは女どうしの恋愛を同棲しまったのである。

1999.jpは、見た目は普通の少女と区別つかない。かずみのアパートに5年間居候していた。女同士で肉体関係を持ってしまったのである。

その5年間の思い出が詰まったアパートからでることになった。それは甘づっぱい思い出がみちているから、一人で、その部屋にいと、孤独感を感じる。とても切ない気持ちになるからである。

インターネットで、「自分の肉体を冷凍保存し、未来へ旅立つ」という記事を見つけ、2000年後の未来へ行くことを決心した。

だが、自分の肉体を冷凍保存するには、数千万円もかかる。どうすれば、2000年後の未来へ行けるか考えた末、最もてっとり早いのが、風俗嬢になることである。

だが、かずみは男性がとても苦手である。ましてSM嬢の女王様になるしても、男性の裸を見るだけでも抵抗がある。その上、いじめられて興奮するのを見ただけで吐き気をもよおす。

かずみ25歳。20歳のとき200年後の未来から来た美少女アンドロイドに恋してしまい、初めは一緒にお風呂に入り、同じベットの中で一緒に寝て、それがエスカレートして、あらゆるレズ行為をする仲になった。

女性が女性を求める風俗店はないだろうか考えた。インターネットで検索したが、なかなか良い店がない。私に相応しいビアン専門のお店はないだろうか？

かずみは独り言を言った。

「やはりオンナ同士が、一番気持ち良いわ。特に若い子だと肌がツルツルして肌と肌が接触するとき気持ちいいの。どう考えてもオンナ同士でエッチなことをするのが私にとって一番相応しいわ」とつぶやいた。

かずみのビアン風俗嬢レビューとなるが・・・。

かずみは中学二年生の時、もう少しのところでレイプされそうになったため、男性を嫌悪するようになった。学校の裏で、ガラが悪そうな不良男子生徒に襲われ、悲鳴を上げた。危うくレイプされそうなところ、他の女子生徒たちが通報してくれた。そのなかで先輩の美しい女子中学生がいた。髪の毛が長く、とてもきれいだった。その美少女の先輩は、かずみに優しく声をかけた。「大丈夫？」膝や太もみにアザができ、軽い擦り傷があるので、その先輩の女子中学生は、かずみを優しく介抱してくれた。

『なんと綺麗な女性なんだろう』と思った。それ以来、女性に対して性的な感心をもつようになった。

それ以来、かずみにとって彼女は憧れの対象になった。それ以来、その経験によつて、男性は怖くってしかたないと感じた。どんなにおとなしそうでも、やさしそうでも男は、人の目がいないところはオオカミになると思ったからである。その事件以降、かずみは異性に全然興味がなくなつた。いや、男性を強く嫌悪するようになった。そして女子高に通うようになり、百合の世界に目覚めてしまった。

女子高での生活はバラ色だった。そして女子短大に入学し、いろんな女の子とつきあうようになった。オンナ同士の楽しい思い出ばかりであった。卒業後、親元を離れ、アパートを借りて生活したときに、突然の閃光、自分の部屋が歪んだように見えた時、窓から全裸

の美少女が入ってきた。

かずみは、あまりにも美しい身体を見て、それは芸術的な美しさだったので感動してしまった。

「これは夢なの？ともリアル！」だが現実だった。

タオルを持ってきて、その全裸の美少女と話し合った。

「あなたは、どこから来たの？わたしの名前は、かずみ。あなたは？」

その全裸の美少女は、しばらく黙っていた。

『わたし夢を見ているのだから。これは夢。こんなSFチックなことなどありえない。もしあったら逆に気持ち悪い・・・』と考えた。

全裸の美少女の肩にタオルを置き、話し合った。

そして食事をすすめたが、その全裸の美少女は何も食べようとしなかった。

かずみは、彼女がアンドロイドであることに気づくまで時間がかかった。

なにか着るモノをと探して、下着とパジャマを用意した。だが下着の着かたを知らないアンドロイド199Jpは、それが何なのか理解できなかった。

かずみは、もう一度訪ねた。「あなたの名前は？どうして全裸でここに来たの？」

かずみは足の裏をみた。1999Jpという刻印があり、「かわった入れ墨ね。」その時、アンドロイド1999Jpは初めて答えた。

「それは私の製造ナンバーです。わたしの体内にあるナノチップにはもっと詳しい製造情報が入力されています」

かずみは何のことなのか理解できなかった。まだ普通の人間だと思い、まさかアンドロイドとは思わなかった。

かずみは先に夕食を食べたが、アンドロイド1999Jpは、いつまでもトイレに行かないし、差し出した飲み物や食べ物に手を出さなかった。

そしてアンドロイド1999Jpは突然、無機質な言い方で言った。

「私の残り稼働時間は、20075日」

かずみは「????」と思った。

そして、アンドロイド1999Jpにお風呂入らないかと言った。

「お風呂とは何ですか？」

「え？何なのこの質問は？」と、かずみは啞然した。

「お風呂とは、身体を洗うところなの」

「では、外部の汚れを落とす作業ですか」

「そうだけど」

「あんだ。全裸で私の部屋に突然は行ってくるし、いったい何なの？」

その時、かずみは二人でお風呂に入ることを考えた。

お風呂に入ると、二人は全裸であり、そして、身体を見たら、体毛が全く無い。

「あの娘、全身、完全脱毛なんだわ。徹底しているわ」そして足の付け根、すなわち下腹部を見て驚いたのは、肛門と女性性器が無いことに気がついた。

『もしかして、彼女はアンドロイドなの？信じられない！今の科学では作れないはず』

かずみはアンドロイドだと初めて認識した。

かずみは質問した「あなたの製造年月日はいつなの？」

「わたしの製造年月日は西暦2197年9月3日午後7時35分で

す」と答えた。

「え！今は西暦2006年12月なんだけど・・・。」

ふたりでシャワーを浴びたときアンドロイド199Jpは言った「私を洗うとき、なぜ水温40.5度の温水をかけるのですか？」

「それは、温かいほうが良いに決まってるからじゃない。冷たい水で洗うと風邪ひくし」

「では、この水の集まりは何ですか？」

「お風呂に決まっているじゃないの」と答え

「『おふる』とは何ですか？」と質問した。

「お風呂とは、人間の身体を温めるためにあるもの」

「一緒に入ってみない」といって、アンドロイド199Jpをお風呂の入り方を教えながら入れた。

二人が入ると、お風呂のお湯がたくさん出て行った。

かずみとアンドロイド199Jpは、お風呂の中で、抱き合った。

「とても気持ちいい。彼女の肌がすべすべして、弾力があって、私の身体そのものがとろけそう・・・。」

「こんな気持ちいい思いをするなら今すぐ死んでもかまわない」と強く感動した。

それが、かずみとアンドロイド1999Jpとの初めての出会いだった。

だが、その5年後、時空の裂け目ができた時、2000年後の未来に戻らなければならなと思い、アンドロイド1999Jpは、かずみの元から去ってしまった。別れのときが訪れたシヨックが強すぎて、かずみは職場を無断で休むようになった。

そして、ネットで自分の身体を冷凍保存して未来で再生してくれる記事を読み、いちかばちかで2000年後の未来へ旅たというと本気で思った。

厳しい性風俗界の現実 暇で長い休日

かずみは25歳で性風俗デビューした。年齢的には遅いデビューである。

かずみは今後の生活を考えた結果、OLの仕事をしながら、風俗の仕事隠れてすることにした。

土曜・日曜日が、かずみの風俗出勤日である。

ピアンを相手にするデリヘルであり、お客の指名があれ、お店の自動車でラブホテルまで送るのである。ボーイツシユな顔をしているので、ときどき、おとなしくかわいらしい十代後半の少年と間違えられることが良くある。もつと幼い顔だったなら、シヨタ向けの外見になったかも知れない。

かずみはネットでピアン系性風俗店の募集を探し続けた。

ピアン系の性風俗店は意外と少なく、最近の性風俗店にとって大きなライバルは出会い系サイトである。高いお金を出して性欲を発散するよりも、出会い系サイトでセックスフレンドを作るほうが手っ取り早いからである。

だから高いお金に見合ったサービスをしなければ、リピーターがつかない。指名されないから稼げないのである。いまどき正社員のOLでも、まだ20代では一ヶ月で給料を使いきってしまうから、とても短期間で数千万円ものお金を貯めるなんてできるわけがない。

また、今どきOL（それも正社員）という美味しい職業を辞める訳

にはいかない。

イメクラなら、残業を断れば、毎日、出勤できるが、相手は男性だから、かずみにとっては気が遠くなるような仕事である。とても男性を相手にする気にはなれない。

イメクラは、ターミナル駅がある場所ならどこにでもあるが、ピアン系風俗店はほとんどないから、えり好みできないのである。

性風俗デビュー初日の土曜日の午前10時半にお店で待機した。

待機中は、狭いお店の中で他の風俗嬢と会話したり、テレビを観て時間をつぶす。

性風俗初日、かずみを指名するお客は誰もいなかった。

かずみは容姿がよくスタイルもいい。今日はなぜかお客さんの指命が来なかった。ギャラはもらえず、待機料だけ、ほんの数千円だけしかもらえなかった。

悔しくなって、一人でバーに行き、お酒を飲んだ時、若いお兄さんから声をかけられたので無視したが、何度も声をかけるので、ほとんどお酒を飲まず、急いで料金を出して出て行った。

若いお兄さんは、おとなしい優しそうな男性だったが、かずみは男は大嫌いであった。

途中、コンビニでお酒と、つまみを買い、テレビをつけピアン系のDVDを観た。

ピアン系の女優二人が裸でエッチなことをしている。そのDVDは某大手の通販サイトから購入したモノである。

出勤初日は、ボーイッシュな、かずみとって似に合うショートパン

ツにタンクトップである。季節的には肌寒い。この服装は肌を露出し過ぎ。

男もののYシャツを着て、ピアン系DVDを観ていると性的に興奮してしまい無意識に、手がショーツの中に入り、オニーをしてしまった。アルコールが入っているから自制できない。

気がついた時には深夜2時になっており、日曜日の朝もお店に出勤しなければならぬと思い、シャワーを浴び、そのまま裸でベツトの中に入って寝た。

日曜日にお店に出勤した午前10時半、今日こそは指命されたいと思った。

狭いお店で、他の風俗嬢が次から次へと指名され、外出したが、かずみはいつまでたっても、指命されず、半分苛立ちを感じた。

かずみは、つぶやいた「わたし胸が小さすぎるから指命がないのかも。胸の大きさは女の魅力だから」

夜7時、やっと、かずみに指命された。

それは既婚の40代の女性だった。一緒にデートするだけのお客だった。

「やっと、指命されたわ。よし、頑張るぞ」と行き込んでいた。

その40代の女性は、ふくよかでウエストが太く、そして年齢よりも老けていて、自分の母親みたいな女性だった。そのお客を観た時、かずみは性的に萎えてしまった。でも、デートだけだから、ちょっと買い物をしたり、一緒にお酒を飲むだけで十分だから、まさか肉体関係はないだろうと思った。

「このお客さん60分だけのデートコースだから、適当に一緒にいればいいだろう」と思ったら、人気がないところで、かずみの露出した太ももを突然、揉み出した。かずみは、いかにもボーイッシュな雰囲気だからいつもショートパンツを履いている。

「いきなり、太ももを揉むなんて大胆なお客さんですね」と苦笑いしながら言つと、

「あんたを指名したのは、まるで少年みたいな顔だから。もともと私は女性に興味がないから」といつて次は、強引に口づけをされた。

かずみの無い胸を見ていつた「胸がほとんどないから、まるで、かわいらしい男の子みたいだから」と言われ、カチンと来た。その「男の子みたい」という言葉が気に入らなかった。

それから、かずみは髪の毛を伸ばし、できるだけフェミニンな女性になろうと決心した。

かずみはお店に帰った時、同僚の風俗嬢に今日のことを愚痴ったが、大声で笑われた。

結局、指命したお客は、40代のふくよかな女性一人だけだった。当然、歩合制であるから、お客一人、それもホテルには行かないデートコースだから、今日の、かずみの日当も安かった。

悔しくてしかたなく、そのままバーに行き、お酒を飲み、酔いつぶれてタクシーを使って自分のアパートに帰った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0757z/>

かずみ・2200年の未来へ行く

2011年12月3日15時55分発行